

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600750
法人名	株式会社ジェイコム
事業所名	グループホーム丹原の郷
所在地	愛媛県西条市丹原町池田1267-1
自己評価作成日	平成24年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

筋力低下予防の為散歩に行き、雨天時は廊下歩行をすることを、日課にしている。昼、夕食前にはラジオ体操、口腔体操を必ず実施している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●お天気のいい日は、敷地内で日向ぼっこをされたり、事業所周辺を散歩されている。事業所では、ユニット毎に、「みんなで外出する」ことに取り組んでおられ、少し遠出をして、市外に梅を見に行かれたり、お寺の桜や藤の花の見物、紅葉狩り等、四季折々のお花を見に出かけられている。時には、仕出し弁当を持ってぶどう狩りや柿狩り等にも出かけて、季節の果物を味わう機会も作っておられる。朝食と昼食を兼ねて、モーニングサービスに行かれたり、ファミリーレストランや回転寿司で外食することもある。
●1月に地域で行われている「どうさん」の行事には、地域の方が「今年もどうぞ」と誘ってくださり、18名ほどの利用者が参加された。事業所では、甘酒を用意して、地域の方に振る舞ったり、又、利用者のために地域の方達がお菓子を用意してくださっていた。利用者は、お知り合いの方とお話をする等、楽しみに地域行事に参加されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム丹原の郷

(ユニット名) 北町

記入者(管理者)
氏名 松木祐子

評価完了日 24 年6月8日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 掲示板や名札の裏に記載しており、実践できるよう日々努めている。	
			(外部評価) 事業所開設以来、法人の運営理念5項目を事業所の理念に揚げて、理念をより具体的に示しておられ、「一人一人が穏やかに生き生きと暮らせるように援助する」「地域の行事に参加しましょう」と、各ユニットの入り口や居間に掲示されている。5月に管理者の交代があり、管理者は、「認知症があっても、いつまでも生き生きと、その人らしく暮らせるよう、少しお手伝いをさせていただきたい」と話されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の七夕祭りに出品し見物に行ったり、秋祭りや神明祭に参加し地域の方々と交流を持つよう努めている。	
			(外部評価) 福祉体験の授業で中学生が6名来てくれ、利用者と一緒にレクリエーションやお話をして過ごされた。1月に地域で行われている「とどさん」の行事には、地域の方が「今年もどうぞ」と誘ってくださり、18名ほどの利用者が参加された。事業所では、甘酒を用意して、地域の方に振る舞ったり、又、利用者のために地域の方達がお菓子を用意してくださっていた。利用者は、お知り合いの方とお話をする等、楽しみに地域行事に参加されている。地域の方達とのふれあいを目的に、職員は、お菓子やパンを手作りして事業所で「喫茶会」を行うことを企画され、運営推進会議時等に案内されたが、地域の方達のご都合もあり、参加いただけるまでに至らなかったようだ。管理者は、今後も、「地域の方にちょっと立ち寄っていただけるような機会を作っていきたい」と話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々からの介護相談を受けている。デイサービス事業所が併設されているので学生の職場体験の受け入れも積極的に行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一回、運営推進会議を開催し、家族の方、地区の公民館長、民生委員、市役所、介護相談員の方々達又、利用者の方も交替で参加して頂いている。行事の写真などを利用し、報告している。家庭や地域の方からの意見を伺い、サービス向上に取り組んでいる。	
			(外部評価) 会議は、事業所で議題を決めて、地域の方やすべてのご家族に案内されている。5月に開催した会議時には、「介護報酬の改定について」事業所から説明された。参加者からは、「どのくらいの負担増になるのか」「待機者はどのくらいいるか」等の質問が出され、管理者が答えられた。利用者も各ユニットから一名ずつ会議に参加されており、「静かでいいところです」「おいしい物を食べたいです」等、ホームでの暮らしについて意見や感想、希望等を話していただき、会議は、利用者の声を地域の方に聞いていただく場にもなっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 管理者が対応している。市担当者と情報交換を常に行っている。施設で行っている行事(花見・喫茶会等)に参加していただけるように案内を出している。	
			(外部評価) 運営推進会議には、地域の方の参加もあることを踏まえて、地域包括支援センターの担当者の方から、「感染症」や振込め詐欺等の、「高齢者の被害」等について、お話していただくこともある。毎月、2名の介護相談員の訪問があり、運営推進会議時にも参加していただき、「職員、利用者の方ともに明るくて、パワーをもらいます」等、事業所についての感想を話して下さっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や研修に参加し理解を深めている。日常的に身体拘束の必要はない。日中は利用者の状態や希望に応じて戸外で過ごしたり出来るよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 日中は、玄関には施錠せず、「家に帰りたい」と外に出られる利用者の方には、ご本人が納得するまで職員も一緒に歩いておられる。ベッドから転落の危険がある方は、低床ベッドを使用されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会で話し合ったり、研修に参加し学べる機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会や研修に参加し、理解を深めるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を開いて、市職員や民生委員、地区役員、家族、利用者と一緒に意見交換する機会を設けている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会の機会に、事業所サービスについて意見や要望を聞くようにされており、現在、ご家族から感謝の言葉が多く聞かれている。又、「このままでいい」と言われるご家族もあるようだ。ご家族へは毎月、写真を多く採り入れた事業所通信と、ご本人の暮らしぶり等を書いた「日常生活報告書」を送付されている。5月に、管理者が交代した際には、毎月送付する書類とともに、あいさつの文書を同封された。事業所では、利用者に負担していただく食材費を値上げしたこともあり、「事業所で利用者が普段食べている食事をご家族にも召し上がっていただき、感想をうかがうような機会を作りたい」と考えておられた。	管理者は、「事業所のサービスについて、たくさん人の感想や意見をお聞きしたい」という気持ちを持っておられる。今後さらに、食事・入浴・排せつ、又、終末期の支援等、事業所からの問いかけ等も工夫しながら、より具体的な要望や意見を引き出せるような取り組みを工夫してみしてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年一、二回、管理者と職員が個別に話す機会を設けている。勉強会に参加した時や、毎日の申し送り時に意見や要望を述べている。	
			(外部評価) 職員一人ひとりが、年度初めに「待つ介護を心がける」等の目標を立て、年2回、管理者は職員と面談して、目標の達成状況を話し合ったり、アドバイスをされている。又、事業所では、「行事」や「園芸」等の委員会を設置しておられ、職員は、それぞれの委員会に所属して、責任を持って活動できるような仕組みを作っておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年一回、会社の総会が開催され参加している。職員の資格習得、勉強会を行っている。資格習得者には、総会で表彰、奨励金が授与されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月一回、勉強会を行っている。内容は職員からの意見を出し合い、年間の予定を立てている。施設内外の研修も研修予定表にて受講の希望を募っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会東予地区の研修に参加し地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークを作りサービス向上へつなげていけるよう努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者が本人や家族から入居前に情報を収集し、併設のデイサービスなど利用するなどホームに慣れて頂けるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者が対応しており、家族からの相談を受け、意見や要望を聞いて家族の気持ちや家族状況など職員に伝えており、良い関係作りが出来るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族から話を聞き、困っていることや緊急性などを勘案して、改善に向けた支援を提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活しているその場その時々で一緒に感じあえるように努めている。漬物の漬け方、野菜の下ごしらえの方法等を教えてもらい感謝や労いの言葉を伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方に利用者の日々の様子を伝え、どのような関わり方をすると利用者がより生き生きと暮らせるかなど話し合い、協力し合える関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の敬老会に参加を希望される方には家族の了解の下、参加して頂けるよう支援している。併設のデイサービスに知り合いの方が来られている時は、話がで出来るように支援している。 (外部評価) 利用者は、子どもの頃から事業所の所在する地域に住んでおられる方が多く、「とうどさん」や「七夕祭り」等の馴染みの行事に楽しみに参加されている。「とうどさん」で玉ぐしを奉納させていただいた利用者もいる。ご家族が来られた際には、職員はお茶をお出して、利用者と一緒に過ごしていただくよう気配りされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の席は利用者同士が関わりが持てるように考え、利用者の様子などを見て席を替えている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された方がいれば、お見舞いに行ったりして関係が継続出来るように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中から、思いや希望を聞き出し一人一人の思いを把握出来るように職員間で話し合っている。また、声掛けしたり、表情からも本人の思いをくみ取るように努めている。 (外部評価) センター方式の「私の姿と気持ちシート」「できること・できないことシート」等を用いて、利用者の現状の把握に努めておられる。シートは、毎年更新されており、利用者個々の一年ごとの変化が分かるようになっている。又、日々の介護記録の内容について、ご本人の思いや希望につながるような言動には、赤線を引くようにされている。	職員は、今後、利用者個々の希望に沿って、お墓参りに出かけたり、自宅に戻ったり、入居前に利用していた美容室の利用等を支援していきたいと考えておられた。さらに、利用者一人ひとりが、より「生き生きと暮らせるように」、個々の生活のこだわりや好み、習慣等にも注目して、支援に採り入れていかれてほしい。利用者の暮らし方の希望をもとにして、利用者主体の生活を支えていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や利用者から生活環境、暮らし方を聞いている。また普段の会話の中からも情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その時、その時の様子がわかるように記録している。体調変化や精神面で、いつもと違う所に注意し、申し送りを密にするようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 利用者、家族の方から思いや意見を聞き、また毎日の生活のなかから得た情報をもとに、話し合い、介護計画の見直しを検討し作成している。</p> <p>(外部評価) 利用者個々に、「家事仕事をする」等の「目標とする生活」を設定し、「運動・移動」「日常生活(家庭生活)」「意思疎通・コミュニケーション」「体調管理」「今後の生活について」と、5項目に分けて支援計画を立てて、目標の達成に向けて取り組まれている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子や利用者の発言、他の利用者との関わり方や、体調の変化を具体的に記録している。毎月カンファレンスを行い、記録を活かしている。利用者の変化は申し送りノートを活用し、職員間で共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 状況に応じて、通所介護を行い、利用者や家族の要望に合ったサービスを行っている。病院受診、衣類や必要な物の買い物はご家族と相談して対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 歌や踊りのボランティアが定期的に来訪し、利用者の方々は楽しみにしている。また、地域の文化祭、運動会にも出かけている。消防署の協力のもと、年二回の消防避難訓練を実施している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人や家族と話し合い希望する病院受診出来るよう支援している。家族が行けない場合は職員が同行している。グループ内の医療機関の医師がかかりつけ医となっている方が多く、週一回の定期的な往診を受けている。近隣の病院も協力してくれている。	
			(外部評価) 系列病院は、24時間対応が可能であり、緊急時は、すべての利用者を受け入れる体制となっている。歯科受診が必要になった場合は、職員が同行して診てもらえるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員を配置している。利用者の健康状態を知っており、体調不良の時は、相談し適切な対応が行えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に利用者の普段の状況や支援方法に関する情報を医療機関に提供している。主に管理者が家族、医師と相談しながら、早期退院に向けて話し合いを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 管理者が早い段階から家族、協力医療機関の医師と話し合い、意見を聞き、連携を取っている。また、体調に変化が見られた時には、繰り返し話し合いを設けている。	
			(外部評価) 利用者の状態が悪化した場合は、「事業所で大切な命をあげることはできない」という方針であり、入居説明時には、「事業所で終末期を支援することは難しい」ことを、ご家族に説明し、了承の上、入居いただくようになっている。利用者の身体に変化があったような場合は、早めにご家族と「今後のこと」について話し合うようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の協力を得て、研修、訓練を行っている。マニュアルを作成し掲示している。勉強会でも学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署、近隣の方たちの協力を得て避難訓練を定期的に行っている。 (外部評価) 4月に実施した避難訓練は、利用者全員が参加して、夜間1階ユニットの台所からの出火を想定して実施された。2階ユニットは外階段を使って避難する訓練を行われた。平日の日中に訓練を実施されたこともあって、地域の方の参加には至らなかったようだが、いざという時には、近所の方10軒ほどのお宅に「避難した利用者の見守り」に協力いただけるようお願いをされている。事業所では利用者、職員分の食糧として飲料水や缶詰のパン等を3日分備蓄されており、9月1日の防災の日に新しいものと入れ替えておられる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者同士が注意し合い、利用者に尊敬の気持ちを持って接するよう努めている。 (外部評価) 入居時に、ご家族の承諾を得て、事業所通信には、利用者の写真や実名を載せておられる。ポータブルトイレは、昼間は居室には置かず、片付けるようにされている。又、パッド等の排泄用品も居室に置かず、別の場所で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が自分の思いや希望を表せるよう声掛けなどをして、普段からコミュニケーションをとるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者への声かけを行い、本人の気持ちを大切に介護を心がけている。ユニット会カンファレンスなどでも職員同士が話し合って利用者の色々な情報を交換し合っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替は本人の意向を優先し、自己決定がしにくい利用者は一緒に考えている。散髪も、理美容師(有償ボランティア)に来てもらって、相談しながら髪型を決めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材切り、盛り付けなど、利用者の力に応じて分担し、行っている。職員は利用者と同じテーブルで食事をし、下膳、テーブル拭きなども声かけ見守りに行っている。行事に合わせた献立(おせち料理、お花見弁当、お誕生会メニューなど)にしている。	
			(外部評価) 献立は、管理者が立てておられ、3ユニット同じ献立ではあるが、食材の買い出しや調理は各ユニットで行っておられる。ユニットによっては、調理専門の職員を配置しているユニットもある。事業所の畑で採れた野菜等も使用されており、調査訪問時には、「収穫したじゃがいもをどう調理するか」、利用者や職員と一緒に考えておられた。月に2回、昼食は、「リクエストメニュー」の日を作っておられ、ユニットごとに、利用者の希望をお聞きして、一緒に食事作りされている。利用者からは、お寿司や麺類の希望が多いようだ。職員も、利用者やテーブルをともにして、同じものを一緒に食べておられる。調査訪問時には、居間のテーブルで、にんじんを切る等、食事の下ごしらえを行う利用者の様子もみられた。又、茶碗、湯のみ、箸は、馴染みのものやお気に入りのものを個々に用意して使用されており、食後は、食器をかごに入れて、流し台まで下げる方もみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立表にそって食事作りをしている。水分量、食事をチェックし、熱量表に記録し、水分を摂りにくい利用者にはとろみをつけたり、ゼリーやプリン、スポーツドリンクを勧めるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、利用者一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。義歯は就寝前にはははずし洗浄している。また、洗浄剤を用いて消毒している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄記録をつけ、時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることでトイレの排泄を促している。</p> <p>(外部評価) 事業所では、「お手洗いにお連れする」ことを支援の基本とされている。入居時、紙パンツを使用されていた方も、排泄記録にて、排泄パターンの把握に取り組み、タイミングに合わせて声かけや誘導を行いトイレで排泄できるよう支援されて、布パンツで過ごせるよう状態が改善された利用者もいる。便秘気味の方には、朝食後ゆっくりトイレに座っていただくような習慣を作り、自然排便につながるよう取り組まれている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 便秘の予防として、利用者の排便状態を把握し、ヨーグルトやセンナ茶を飲んでいただいたり、廊下歩行など、体を動かすことを取り入れている。また、ご飯を炊く時に粉寒天を入れている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者に合わせた声かけをしている。また体調に合わせて、入浴を控えて頂いたり、足浴なども行なっている。</p> <p>(外部評価) 入浴は、午後から、利用者個々に一日おきに入れるよう支援されている。お風呂がお好きな方は、毎日入浴する方もある。石鹸ハイウェイオアシスの足湯に出かけることもあり、利用者は「気持ちいい」と喜ばれるようだ。事業所では、入居時、「浴槽をまたぐことができなくなると、湯船で温まることは難しい」ことを説明されている。現在、シャワー浴と足浴のみの対応となっている利用者の方もいるようだが、入浴については、利用者主体支援となっているか、ということを通時に職員で話し合い点検されたり、運営推進会議や家族会等でも意見や要望、希望を聞いてみてはどうだろうか。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 日中はリビングで過ごしたり、体調などに合わせ、居室で休むことを勧め、誘導している。入眠前にホットミルクを飲んだり、音楽を聞きリラックス出来るようにしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬ファイルを作成し、職員が内容を把握出来るようにしている。投薬時には、一人ひとりに合わせ投薬方法を決めており、介助している。状態変化が見られる時はいつもより詳細な記録をとっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事作り、梅干し、干し柿作りなど利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。また、花の好きな方は庭で花を摘んだり生花教室への参加を勧めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとの花見に出かけたりすることで、季節を肌で感じていただき、心身の活性につながるよう日常でも外気浴などで気分転換できるよう支援している。 (外部評価) お天気のいい日は、敷地内で日向ぼっこをされたり、事業所周辺を散歩されている。事業所では、ユニット毎に、「みんなで外出する」ことに取り組んでおられ、少し遠出をして、市外に梅を見に行かれたり、お寺の桜や藤の花の見物、紅葉狩り等、四季折々のお花を見に出かけられている。時には、仕出し弁当を持ってぶどう狩りや柿狩り等にも出かけて、季節の果物を味わう機会も作っておられる。朝食と昼食を兼ねて、モーニングサービスに行かれたり、ファミリーレストランや回転寿司で外食することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個別に必要な時は立替払いを行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎年年賀状を出す為、はがきを用意し、自分で書ける方は書いて頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングより台所が見え生活感が感じられる。テーブルには季節の花を飾ったり、壁飾りを毎月変えたりして、季節の移り変わりを感じてもらっている。和室では横になったり、腰をかけて洗濯物を干したりたたんだり自由に過ごしてもらっている。</p> <p>(外部評価) 事業所の建物を囲むように、花壇や鉢植えがあり、ゴールドクレストの緑に色とりどりの季節の花を組み合わせて植えておられ、職員が手入れ等をされている。敷地の一角にパラソルやベンチが設置されており、調査訪問時、帽子をかぶった数名の利用者が職員とベンチに座り、花や木を見ながら、歌を歌ったり、談笑したりされていた。1階フロアの窓からは、山々が一望でき、利用者が、「あの向こうの方に見えるのが石鎚山よ。今日ははっきり見えんねえ」と指をさして教えてくださった。畳スペースには、床の間があり、利用者が生けた盛り花が飾られてあった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 陽当りのよい場所や廊下の突き当たりにソファを置き、くつろげるようにしている。玄関前にもベンチを置き、くつろげるスペースを設けている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家で使っていた家具を持って来られたり、施設の椅子やソファを自由に使って頂けるように部屋へ配置している。また写真や手紙などが貼れるようにコルクボードを壁に取り付けている。</p> <p>(外部評価) タンスや鏡台を持って来られていたり、ご家族と一緒に撮った写真、いただいた年賀状、長寿の表彰状等を飾っている居室もみられた。観葉植物を飾り、水やり等の世話をされる方もいる。調査訪問時、鉢の中の土を触って、「今日はまだ水やらんでもええわ」と教えてくださった。6月に入り、日差しが強くなってきたことから、1階の居室の窓には日よけのすだれをかけておられた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) トイレや浴室にはよく分かるように表示している。また、自室入り口には表札を作り、掛けている。大きな日めくりや、利用者が毎日めくるカレンダーを用意し、日にちや曜日がわかるようにしている。</p>	